



# 六甲カトリック教会 教会報

1

No.589

## 今年は希望の年になりますように

新しい年が明けました。昨年はコロナに振り回された一年でしたが、ことしはどうなるのでしょうか。世界ではワクチンの開発が進み、一部接種が行われるようになりました。一筋の光が見えてきた感じですが、しかし、12月現在の国内の感染者数は増加の一方で、医療、経済、社会に大きな不安を抱えたまま年を越しました。12月の小教区評議会では、2021年度の予算と活動計画が主な議題でしたが、この状況では全てが「様子見」。コロナさえ退散してくればミサも教会活動も、もとに戻るのに歯がゆい思いが各評議員の胸中に溜まっています。

以下の議事録(要約)のとおり、来年度の活動は次回2月の評議会までほぼ凍結状態になります。アルフレド主任司祭のお話では、教会財政も収入が昨年比かなりのマイナスで、じわじわと困難な事態を迎えていると言わねばなりません。

教皇フランシスコの12月の祈りの意向を一部ご紹介します。「教会のミッションの心臓、それは祈りです。祈ることでわたしたちは現実を変化させます。わたしたちは多くのことが出来ますが、祈りなしではうまくいきません。みなでそれぞれ心を込めて祈りましょう」

ことしはよいスタートが切れますように。(編集部)

**【訂正】** 先月号(2020年12月号)巻頭記事の中に誤った記載がありました。六甲教会の創立は1948年が公式です。創立記念何周年はこの時点から起算します。先月号では起算を1939年としていました。したがって昨年が創立80周年という箇所は本来71周年ということになり、誤りでした。訂正しておわび申し上げます。(編集部)

### 2020年度第3回小教区評議会議事録(要約)

**日時** 2020年12月6日 場所 信徒会館 第1・第2会議室  
**出席** アルフレド主任司祭、中村神父 議長、書記、及び各部会コーディネータ(壮年会、婦人会、教会学校、地区会、典礼部、社会活動部、広報部、施設管理部、財務部、宣教・養成部)、防災委員会、事務所

**主任司祭挨拶** 略

#### 協議事項

2021年度活動計画

コロナ禍で見通しが立たないまま、おおむね例年通りの活動計画を立てている。

次回評議会(2021年2月)で最終審議決定することになる。

(次頁につづく)

(前頁よりつづき)

### 予算編成

各部会ほぼ例年通りの予算申請を行っている。

調整の結果、当初案より減額となった。

### 報告事項

- ① 祈りと音楽の集い 11月8日(日) 教会のオルガン奉仕者3人の演奏、テーマ「光への祈り」  
入場者約80人
  - ② クリスマスマサ整理券発行状況説明
  - ③ 教会大掃除 12月5日(土) 約30人参加
  - ④ 七五三祝福式 11月15日(日)
  - ⑤ 洗礼式、初聖体 12月6日(日)
  - ⑥ 増設した主日11時半ミサの参加者は10時ミサと変わらないので、コロナ終息まで当面継続する。
  - ⑦ 2021年度の年間行事予定表は外注せず教会内で内作する。
- ◎次回(第4回小教区評議会)は2月7日(日)13時より 第1・2会議室にて

### 1月の主日ミサ予定表

日	時	地区(グループ)
2日(土)	18時	どなたでも
3日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ
9日(土)	18時	どなたでも
10日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
16日(土)	18時	どなたでも
17日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ
23日(土)	18時	どなたでも
24日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
30日(土)	18時	どなたでも
31日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ

第1グループ  
灘北1・北三田  
灘北2・阪神  
灘南・神戸西

第2グループ  
灘西・中央  
東灘北1  
東灘北2・芦屋  
東灘南

12月31日(木) 神の母聖マリアミサ 23時 (どなたでも)

1日(金) (神の母聖マリアミサ)	8時半	どなたでも
	11時	第1グループ
	12時半	第2グループ

※ミサの予定表は流動的です。教会からの最新の情報ご注意ください。

## ク リ ス マ ス ミ サ

2020年のクリスマス・イブは、5回に分けてミサが立てられました。私は最終の9時のミサに与ってきました。毎年、9時ミサは会衆もすくなくなってきましたが、ことしはどんなものだろうと…。意外にも会衆はほかの時間帯と比べても決して少なくはありませんでした。正面に、花に囲まれた飼葉桶の幼子イエス、新しいモニターには「主の降誕」と大書されています。人数が制限されながらも精一杯クリスマスらしい雰囲気を保っていました。



現行のミサと同じように、いまはクリスマスでも会衆は聖歌を斉唱できません。馴染みの聖歌を、ほんとうはみんな声を出して歌いたいただろうな、と感じたことでした。日の



短い冬至の時節、朝から雨が降っていました。それでも集まった人々には、主イエスの誕生を祝うとともに、コロナに振り回されたことしの締めくくりの祈りの場として、思い思いの感慨があったと思います。神父様、先唱、オルガン、独唱・朗読奉仕、そして案内の方々はローテーションが大変だったろうことも思いながら、静かに主の誕生を祝いました。

「ミサ終了後はすみやかにお帰り下さい」とのアナウンスを聞きながら、その昔はこのあと、焚火を囲んでいつまでも歓談していたなあ、とつまらぬ懐旧にひたっていました。（詫洋一）

### ご聖体の顕示

2020年の8月7日以来、10時の初金ミサのあと、ご聖体が顕示されるようになりました。従来、聖体顕示は、たとえば6月のイエスのみ心・祭日（金曜日）などごく限られた日に行われていました。しかしコロナ下でミサの時間の確保さえ困難な状況のもと、イエスに向き合う機会を少しでも増やそうと、せめて毎月、初金曜日のミサには聖体顕示がなされることになったのです。日常のミサではありがたくご聖体をいただく、ということだけでつい終わってしまいます。しかし顕示によってご聖体にしっかり向かい合い、崇敬することによってイエスの恵みとの一致が得られます。聖体顕示では、顕示台に、聖変化されたパンを置き、会衆はともに賛美礼拝します。この儀式をベネディクション（聖体降福式・聖体賛美式）と言います。顕示台（オステンソリウム）は放射状の装飾が施された華麗なものから、素朴なかたちのものまで実に多様です。ご聖体は一定時間祭壇に



顕示されたご聖体（左）と聖体賛美式

安置され顕示されるので、信徒はその間自らの信仰を顧み深く祈ることが出来ます。12月4日の初金ミサのあとも、中村神父の司式のもと、静謐の中に聖体賛美が行われました。静かに集まった会衆は、長い沈黙と瞑想のなかに祈りました。共同の祈りでは思い思いに「願い求め」をささげることができます。（詫洋一 記 監修 中村健三神父）

## 《イエズス会4教会クリスマスメッセージ交換》

恒例になったイエズス会4教会のクリスマスメッセージ交換（交歓）です。

コロナでWEB会議も中断したままですが、各教会それぞれ努力を重ね、新しい年に向かって進みます。



Merry Christmas 待降節、毎晩夜8時に、1人で、夫婦で、親子で、家族で、友人と、新型コロナウイルス感染症で苦しむ世界のために、心を合わせてお祈りしました。

イエス様のご降誕を待ち望みながら、そして、1月末の私たち祇園教会の信徒会館完成を待ち望みながら。その名も『Advent 祈りの花束』究極のテレワーク「お祈り」を小さなイエス様にお捧げするために。クリスマスおめでとうございます。

**祇園教会** 主任司祭 清水 弘  
助任司祭 高山 親  
信徒一同

2020年は新型コロナウイルスでの幕開けでした。ミサをはじめ教会活動の規制により現在の山口教会の聖堂は、只今閉館中のため観光客の方は太陽の光が差し込むステンドグラスを見ることができず、残念です。その代わりに、小高い山にある教会のため、野生のイノシシ家族が食べ物求めてやってきます。今年のクリスマスは、規模を縮小してシンプルなお降誕のミサとなりますが、回数を増しての対応で準備しています。

今年はWithコロナの中で教会活動を考える1年となりました。来年は新たな道を模索しながら前を向いて歩んでいかれますよう祈っております。

**山口カトリック教会**  
主任司祭 百瀬文晃 SJ  
ルイス・カンガス SJ 桜井彦孝 SJ  
外川直見 SJ 信徒一同

「こいつあ春から縁起・・・」でもない、新型コロナウイルスに跳梁跋扈され、おかげでご復活ミサをはじめ、教会活動がほとんどストップしてしまいました。人と人との対面が制限される辛さが身に沁みました。コロナはまた勢いをつけ感染者数が増えつつあり、このまま年を越してもどうなるか予断が出来ません。六甲教会はそれでもクリスマスまでに、人数を制限しながらミサの回数を増やし、出来るだけミサを通じて信徒の交わりが維持されるよう工夫しています。「止まない雨はない」ということばを信じて「主にまかせよ」と祈り続けましょう。

**六甲カトリック教会** 主任司祭アルフレド・セゴビア 中村健三神父  
信徒一同

### イエズス会 姉妹教会から



教会周辺にお住いの一般の方々も毎年楽しみに待っていてくださるクリスマスバザーとご降誕イブミサ。今年はコロナ禍の対策としてバザーは中止、ミサは毎回100名限定の事前申込制となりました。こんな苦難の2020年でしたが、今年度の教会テーマ「新しい協働」のもと、手さぐりで始めたYouTube配信によるミサ・入門講座・黙想会、SNSの活用など新たな宣教司牧活動が徐々に軌道にのりはじめ新しい時代への何よりの光明でした。

魏町教会より Merry Christmas! 主のお恵みにあふれる新年をお迎えください。

#### カトリック魏町 聖イグナチオ教会

主任司祭 英 隆一朗  
助任司祭 李 相源  
ポニー・ジェームズ  
共同体一同

## 初聖体と洗礼式

12月6日(日)の11時半のミサで、初聖体と洗礼式が行われました。コロナ緊急事態で延び延びになっていたものです。初聖体が5人、洗礼が3人です。アルフレド神父様は「イエスさまと友達になってほしい。イエスさまはずっといらっしゃる、なんでも言えるお友達だから」とやさしく話しかけられました。それぞれ記念の品をいただいて、最後に西川倫君のパパ・基之さんが弾くギターが加わって閉祭の歌「Walk in the light」が歌われました。



▲初聖体の5人



▲洗礼の3人



## 今月の聖人 1月 ☆聖パウロ



聖パウロの回心記念日とされているのが1月25日です。ギリシャやローマに伝道旅行を敢行、古代ヨーロッパにキリスト教を広める先達を果たしたパウロですが、はじめは熱心なファリサイ派のユダヤ教徒でキリスト教徒を迫害していました。「サウロよ、なぜお前は私を迫害するのか」というイエスの言葉を聴き、かみなりのような天の光に打たれ目が見えなくなり失神します。そのショックでキリスト教に帰依し、福音をのべ伝えるために新しい人生を踏み出すこととなります。聖書（使徒言行録）によると回心後にサウロからパウロと表記が徐々に変わっています。各地の信徒に宛てた数多くの書簡が残り、新約聖書の相当な部分を占めています。最後はローマで殉教したと言われますが、ドラマチックな人生と熱意にあふれた彼の行動と足跡は、キリスト教の伝道の根幹をなすものと言えます。余談になりますが、聖公会の立教学院は聖パウロが守護神とされ、この記念日1月25日には、学院児童に紅白の「回心饅頭」が配られるとのことです。

(写真はピエトロ・ダ・コルトーナ画 [1631] パウロの回心)

## 教会大掃除



12月5日土曜日に教会大掃除を実施いたしました。例年は、11月のバザー開催翌週に実施していたのを今年は初めての試みで落葉の多くなる12月に開催することになりました。2020年度地区会主催の最初の行事が12月の大掃除になってしまい、3月以降久しぶりにお会いできた方もいました。2月に金剛教会から転入された方は教会行事に初めて皆様と参加できて嬉しかったと仰っていました。

新型コロナ感染が収まらない状況下にもかかわらず想像していたより多く、30名以上の方にお集まり頂きました。小学生の子供さんの参加も1名あり、落葉集めを手伝ってくれました。

男性は屋上、外構、女性は屋内、トイレ、聖堂扉の棧、廊下、階段、落葉集め等の分担を決め、9時に開始し10時半に終了しました。晴天に恵まれ、隅々まで例年になくきれいに清掃できたことを感謝いたします。最後に3密を避けながら藤棚の下で中村神父様お手製の焼き菓子を頂き終了しました。(地区役員代表 井川 直哉)



### 施設管理部園芸係

昨年11月～12月中旬、毎日曜日早朝のミサ後、週報で呼びかけ、教会内外の大量の落ち葉の清掃に毎回10人程の方が参加くださいました。ありがとうございました。

また、毎日、欠かさず清掃に尽くして下さる方々のおかげで、ご近所からも感謝の言葉を頂きました。ご降誕と新年に向けて花壇では早春から初夏に向けての苗の植え込みをいたしました。

教会学校のご父兄の園芸グループが誕生しました。若いパワーの花壇は元気と優しさをお届けします。綺麗になったお庭で一時、足を止めていただければ嬉しいです。

今年もご協力よろしくお願い致します。

先月号でお知らせした新企画「おみそれしました」(仮題)はタイトルを「趣味百景」とします。初回は鉄道模型とジオラマ。佐藤雅孝さんです。

## 趣味百景

### 古きあの日にタイムスリップ

毎日通学で乗っていた列車にまた乗りたい、旅先で乗ったあの列車にまた乗りたい、と思ってもその願いが叶わないことは多いと思います。あのときの車両は引退してしまっていることが多いからです。そしてコロナ禍の今、自由に旅をすることも出来ません。私は鉄道模型を走らせながら、あの車両が現役だった頃に想いを馳せています。鉄道模型は買ってコレクションするだけではありません。私たち一人ひとりに人生があるように、鉄道車両にもストーリーがあります。新製されてから廃車になるまでに、その車両がずっと同じ路線で活躍することは稀です。冷房が取り付けられたり、他線に転用されて塗色が変わったり、リニューアルされたり。たくさんの経験を積んだ車両にはその車両の歴史が刻まれています。私は写真資料を集め、買った模型に手を加えたり、時には自作したりして当時の姿を忠実に再現して楽しんでいます。結婚したとき、小さなジオラマを作ってみました。教会も



あります(写真右上)。いかがでしょうか。最近では長男と一緒に運転を楽しむことが多いです。次の私の目標は、一緒に大きなジオラマを制作することです。ビルの合間を行き交う通勤電車、夜も休まずに走り続ける寝台特急… 一体どんな列車が走ることになるのでしょうか。(佐藤雅孝)

## ◆年の初めを祝う◆

お正月の祝いが、余りに簡単になったのではないか。家族が総出で大掃除に精を出し、門松を立てたり入口にシメナワを飾ったりした。また皆でにぎやかに餅をついたこともあり、水とりの手さばきと力自慢の杵さばき、両者の掛け合いの妙に驚き入り、また子供たちが大人に手を添えられながら重い杵をふるい、また搗きたての餅を頬ばるなど、ここそこに笑いが渦巻いた。また御せち料理の多くは当然ながら手作りで、戦後の貧しさの中ではイセエビやハムや鯛は無く、塗りの重箱にはクワエや黒豆やこんにゃく・里芋・人参の煮しめやゴマメがひしめいていた。私の務めは、ゴマメを焙烙(ほうろく)でゆっくり交ぜ返しながら炒ることだった。さて年が明けて元旦には、座敷に銘々のお膳を二列に並べて年齢順に整え、父の祝いの言葉に和して皆で新年を祝ってお雑煮や料理に武者ぶりついたものだ。そのお膳もお椀もウルシ塗りで、男と女とでは色も形も異なり、正月の三賀日に限って使われた。おそらく父や母の老舗商家の習慣が、持ち込まれたのだろう。あれからもう半世紀以上がたったが、それぞれ一家を成した私の兄弟姉妹は自分の子供たちに、さてどんな正月の習慣・祝い方を伝えているのだろう。

今はすべてが便利になった。家族がそろって、家の仕事に幾日も費やす暇や心の余裕は無いのでは。年初のきわ立て、年頭の始まりそのものを新たな門出として祝い、テゾメの決心を新たにするといった習慣・感覚そのものが、すっかり薄れてしまった。時の平凡な流れを勝手に区切って、今は忙しい大晦日、今はめでたいお正月といって、ほんの数時間の経過を大切に意

識し祝う意味そのものが、不自然に感じられるのだろうか。良いか悪いかは別に、現代の都市や町の生活に四季それぞれの風物・行事・祝いは無いに等しい。電化製品のおかげか、どこの家でも冷蔵庫やエアコンが在り、薪を燃やす風呂焚きもタライや木の板を使う洗濯も、チリはたきと箒を使う掃除からも解放されて久しい。この間、八幡神社を通っているとサラエや竹箒ではなく、何と電気による小さな送風機で落ち葉を吹き集めていた。季節に左右され無い便利で快適な生活そのもの、また個人主義の浸透が、事の初めの祝い事や暦による節目への注視を一掃してしまったのだろうか。

懐かしい思い出の数々は再び還るスベも無い過去の昔話であるが、人生に必ず訪れる新たな時、転機の時をどのように画するのか、どのように期するのか、真剣に問い質してもよいのではないか。2021年の初めにあたって、一年の計をどのように思い巡らすのか。キリスト者として世間とどのように関り、不可思議なご縁に結ばれた人間関係を、どのように保ち深めていくのか、ジックリと考え祈ることが重要であろう。ここで個人的な初夢や進路を想い描くとすれば、さてこの私は4月からどこで何をするのだろう。ここに留まるのか、どこかに転進するのか。イエズス会管区長の決定・任命に関わる事であるが、私の決断も多少なりとも与っている。何処で何をするにせよ、この老いた身体をひっさげ、この性癖とボケ加減と独特の持味を一緒くたに持参する他はあるまい。「あなたがお呼びになりました、どうぞお話しください。私はここに居ります。」 中村健三 合掌

## 【 2021 年1月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					神の母聖マリア ミサ 8:30、 11:00、12:30 世界平和の日	教会受付休み
3	4	5	6	7	8	9
主の公現					◎灘西・中央	
10	11	12	13	14	15	16
主の洗礼	教会受付休み				◎東灘北 1	
17	18	19	20	21	22	23
年間第2主日 阪神淡路大震災 追悼祈念	キリスト教一致 祈祷週間 (~25日)			◎定期清掃		
24/31	25	26	27	28	29	30
24日:年間第3主日 31日:年間第4主日 世界こども助け合い の日(献金)	聖パウロの回心				◎東灘南	

◎は掃除当番地区です。

### 編集後記

コロナの終息がみえないまま年が明けました。自粛要請を守り、会いたい人に会わず、行きたいところも行かない生活を選び、孤独を感じることもありますが、そういう時期だからこそ、聖書や関連書籍を読んで神様と親しくなろうと思います。(大上尚子)



<p>次回2月号の発行は、1月30日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご意見もお寄せください。(広報部)</p> <p style="text-align: center;"><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p>	<h3>六甲カトリック教会</h3> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E - メール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
---	--